

法科大学院の適正配置と地方法科大学院に対する支援を求める理事長声明

平成13年6月12日に発表された司法制度改革審議会意見書は、21世紀の「この国のかたち」は法の精神・法の支配がわが国の隅々までゆきわたった社会であるとし、そうした社会を担うべき法曹の役割を「国民の社会生活上の医師」として各人のおかれた具体的な生活状況ないしニーズに即した法的サービスを提供するものとした。そして、そうした法曹をプロセスとして養成する必要があるとし法曹養成制度として全国的な適正配置に配慮した法科大学院の設置を提言した。

わたしたち四国四県の弁護士会で構成する四国弁護士会連合会は、こうした提言を受けて、法の精神・法の支配をわが国の隅々までゆきわたらせ、その地方に住む人々の具体的な生活状況やニーズに応え得る法曹はその地方で養成すべきであると考え、四国四県の諸大学と弁護士・弁護士会が幾度にわたり協議を重ね、「四国で生活する人々のための法曹を四国で養成する」という理念のもとに2つの大学が連合するという他に例のない形態での香川大学大学院香川大学・愛媛大学連合法務研究科（香川大学・愛媛大学連合法科大学院）が四国で唯一の法科大学院として設立された。

設立後も、当連合会は、会内に法科大学院支援・司法修習員会を設け、実務家教員の推薦、授業参観やこれに基づく大学教員との意見交換会、院生の愛媛大学におけるリーガルクリニックへの愛媛弁護士会会員弁護士の派遣、愛媛を除く四国各弁護士会持ち回りによる院生参加の法律相談会の実施、院生や修了生に対する法的論述能力養成講座開催や学習支援等々香川大学・愛媛大学連合法科大学院によるより良い法曹教育・法曹養成を実現するために協力し、これを支援してきた。

こうした結果、香川大学・愛媛大学連合法科大学院は、社会人経験者、他学部出身者、家庭や経済的事実等から地域を離れることができない者などの多様な人材を受け入れ、これまでに送り出した法曹のうち約62%が四国四県の弁護士会に登録し、そのうちの1名は四国の企業に組織内弁護士として勤務し、いずれも四国にお

ける法の精神・法の支配の担い手として活躍している。

ところが、香川大学・愛媛大学連合法科大学院もまた、他の地方法科大学院と同様、入学志願者・入学者の急激な減少による入試倍率の低下、司法試験合格率の低迷という問題に直面している。加えて、文部科学省が公的支援の更なる見直しを行うことを決定したためこれまで以上に厳しい状況に置かれることとなっている。

しかし、現在、地方法科大学院に共通して生じている入学志願者・入学者の減少や司法試験合格率の低下の真の原因は、地方法科大学院自体の質の問題というより、単に地方に法科大学院の設置を認めただけで、都市部に多数のそして大量定員の法科大学院の乱立を認めるという、真の意味での適正配置という政策理念を欠いた法曹養成・法科大学院施策にあったというべきである。かかる政策理念を欠いた法科大学院の乱立の結果、法曹志願者を都市部に集中させ、法曹志願者の適正配置を阻害したのである。司法過疎を解消して地域司法の充実・発展させ、司法制度改革の理念を実現するためには法曹養成の場たる法科大学院とそこに学ぼうとする法曹志願者を全国に適正配置することが極めて重要である。

かかる地方法科大学院の現状をもたらした真の原因と司法制度改革にとっての法曹の全国適正配置の重要性に鑑みれば、地方法科大学院が政策理念を欠いたままの単なる競争原理による見直し基準によって統廃合を余儀なくされることは、わが国の司法の将来、「わが国のかたち」を誤る由々しき問題である。

そこで、わたしたち四国弁護士会連合会は、今後も香川大学・愛媛大学連合法科大学院を支援していくことを表明するとともに、関係各位・関係各機関に対し、以下のとおり強く求めるものである。

記

- 1 法曹養成制度関係閣僚会議及び法曹養成制度検討会議は、法曹養成制度の在り方について検討するに当たり、わが国の隅々まで法の精神・法の支配を及ぼすべく法曹志願者の全国適正配置と法科大学院の全国適正配置を重視すること。
- 2 政府は、わが国の隅々まで法の精神・法の支配が及ぶわが国のかたちを実現す

るため、法曹志願者の全国適正配置と法科大学院の全国適正配置の施策を実行し、地方法科大学院がその使命を実現できるよう国立大学法人運営交付金又は私立大学等経常費補助金を減額しないこと。

- 3 日本弁護士連合会は、単なる競争原理に基づく地方法科大学院の廃止統合に反対し、政府その他関係諸機関に対し、法曹志願者と法科大学院の全国適正配置のための施策の実施を求め、地方法科大学院に対しその使命を実現できるよう公的支援を求めるとともに、自らも適切な支援を行うこと。

以上、声明する。

2012年（平成24年）12月21日

四国弁護士会連合会

理事長 行 田 博 文